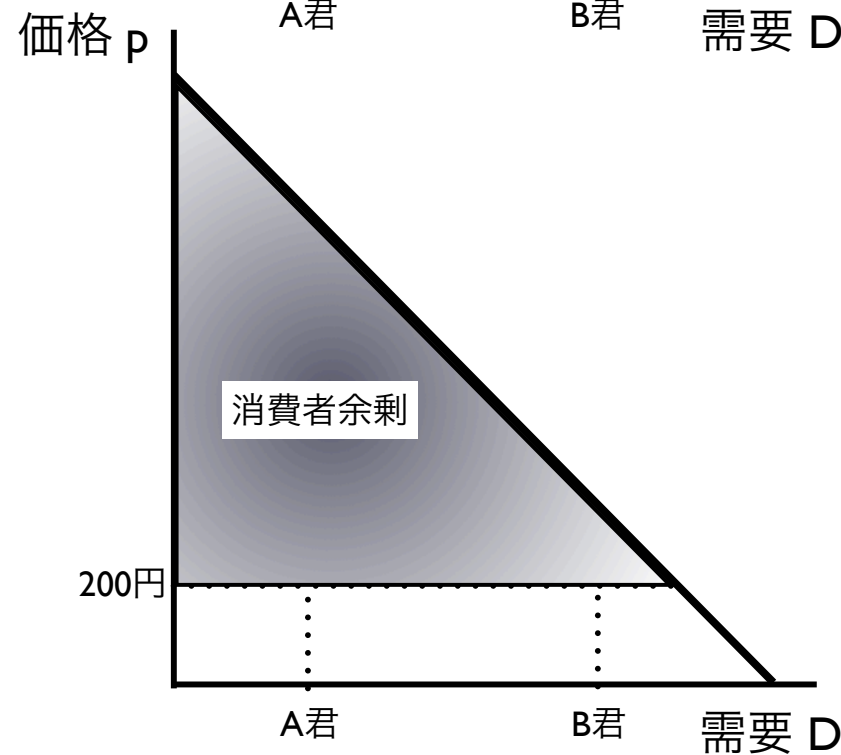
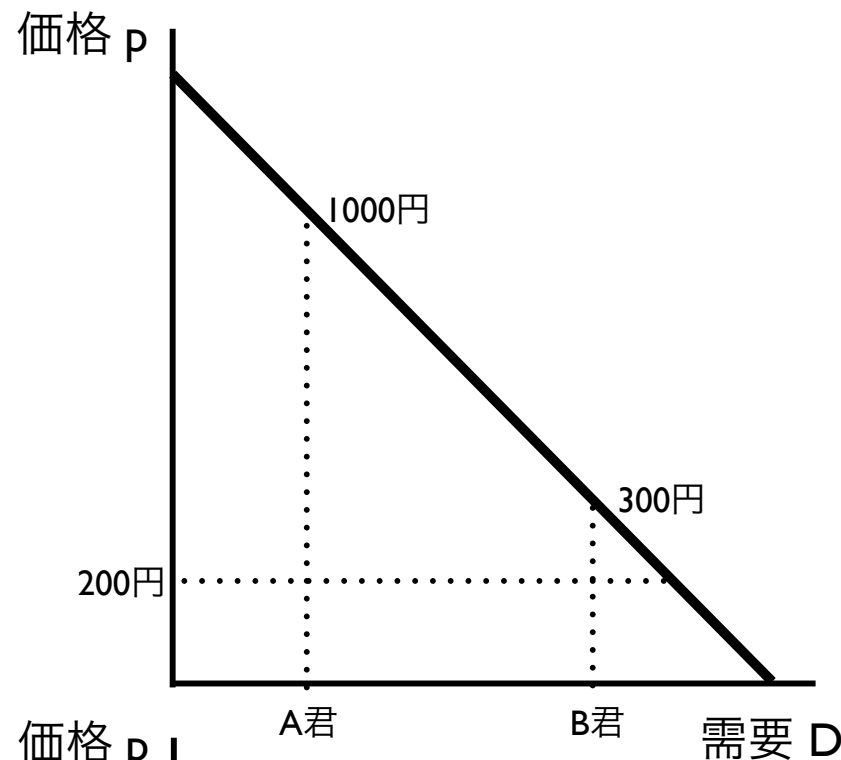


ミクロ経済学のABC

- 商品の価格がどう決まるか、を考えるのが出発点。
- 市場、需要、供給、市場均衡
- さまざまな社会制度（経済制度や「慣習」）の存在理由を考えたり、独占や政府規制がどんなメリット・デメリットをもたらすかを考える。
- 消費者余剰、生産者余剰、死重損失
- 効用、消費者主権、パレート最適原理、補償原理（功利主義）
- パレート最適原理：
全ての人の効用を現状維持もしくは改善する改革は、良い改革である。
- 補償原理：一部の人の効用を下げる場合でも、事後的再分配で補償が可能ならば、そういう改革は行われるべきである。
- たとえば・・・価格規制（最低賃金制、医療・福祉サービスなど）
参入規制（タクシー業界、輸入自由化など）、等々
- 新古典派経済学、レッセ・フェール（自由放任主義、夜警国家、予定調和）

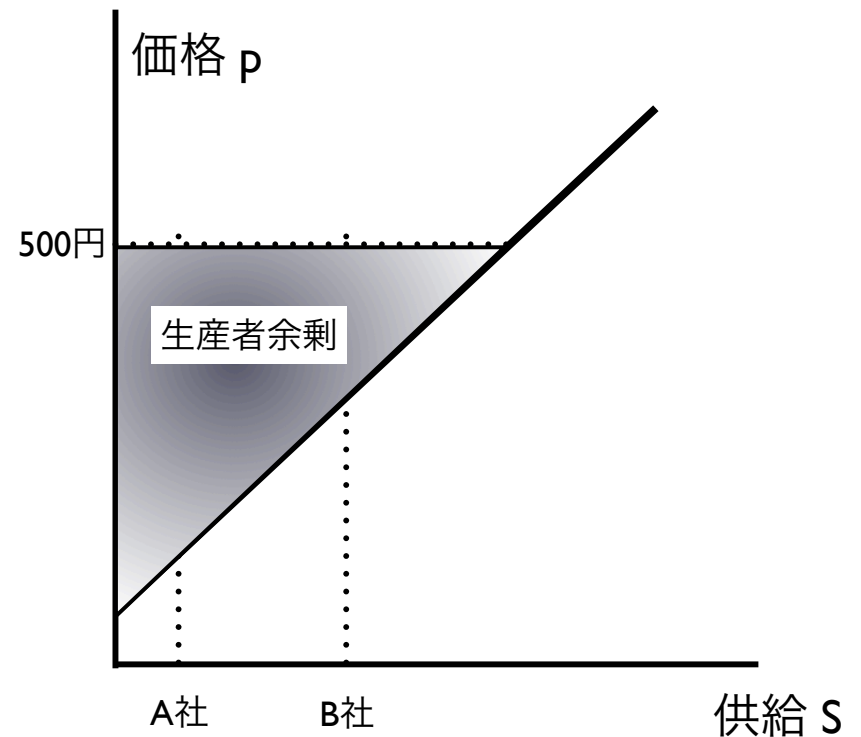
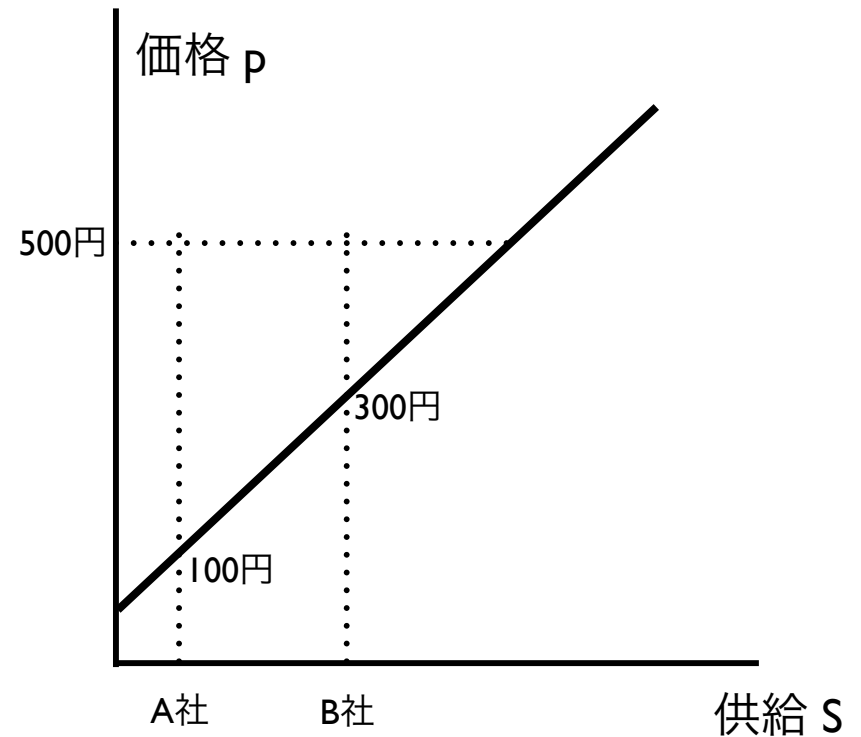
消費者余剰

- 需要曲線上で・・・
 - A君は1000円払っても、この商品が欲しい
 - B君は300円なら、この商品を買いたい
 - C君は100円なら、この商品を買ってもよい
- いま、均衡価格が200円になったとすると・・・
 - A君もB君も200円で商品を手に入れる。
 - A君は、800円分のトク
 - B君は、100円分のトク
 - C君はこの商品を買わない。
- 右の三角形の面積を、消費者余剰と呼ぶ。



生産者余剰

- 供給曲線上で・・・
 - A社は100円でモトがとれる
 - B社は300円でモトがとれる
 - C社は1000円でモトがとれる
- いま、均衡価格が500円になったとすると・・・
 - A社もB社も500円でこの商品を生産販売する
 - A社は400円のトク
 - B社は200円のトク
 - C社は商品を生産販売しない
- 右の三角形の面積を、生産者余剰と呼ぶ。

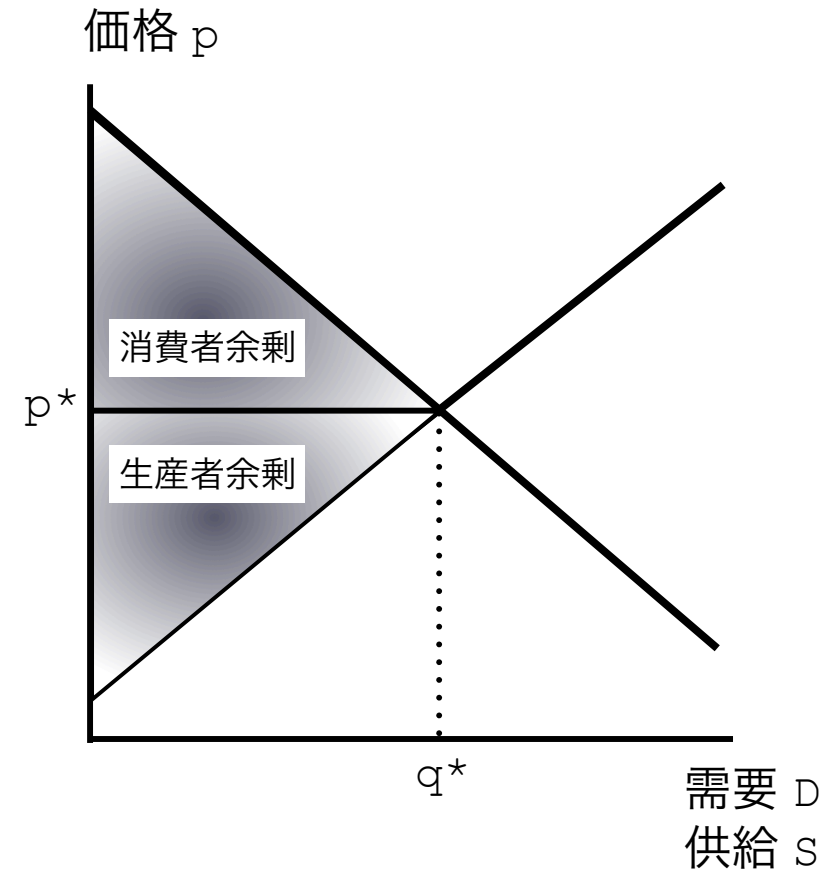


市場均衡における余剰の合計

- 均衡価格 p^* のもとでの社会的総余剰は、
消費者余剰 + 生産者余剰

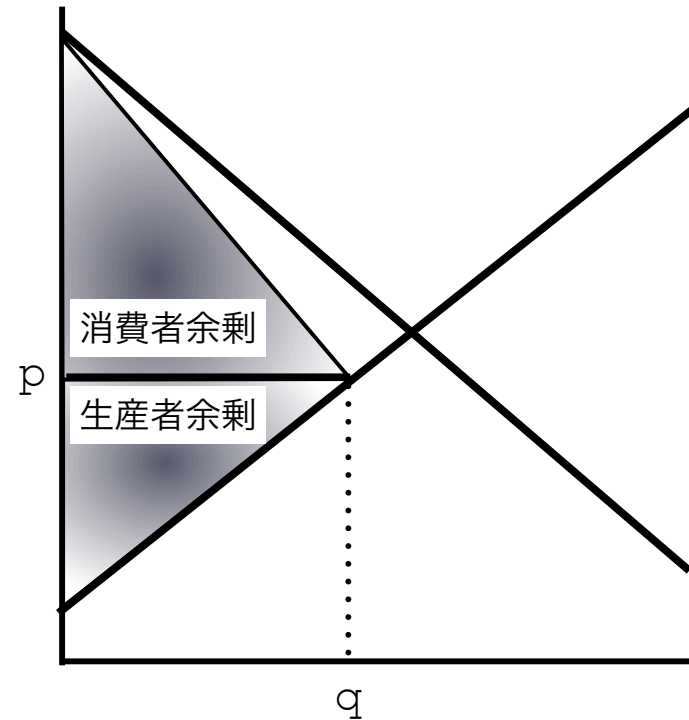
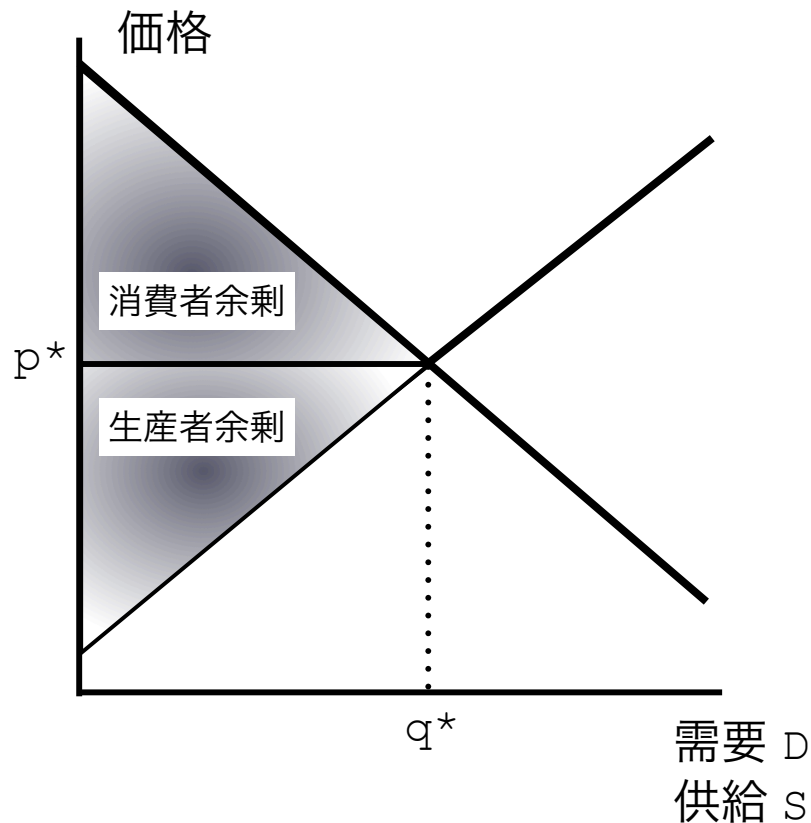
- 簡単な数値例
(ERE経済学検定などによく出る問題)

- 需要曲線 $p = 10 - 2D$
- 供給曲線 $p = 2 + S$
- 均衡価格と均衡取引量を求めよ
- 消費者余剰と生産者余剰を求めよ



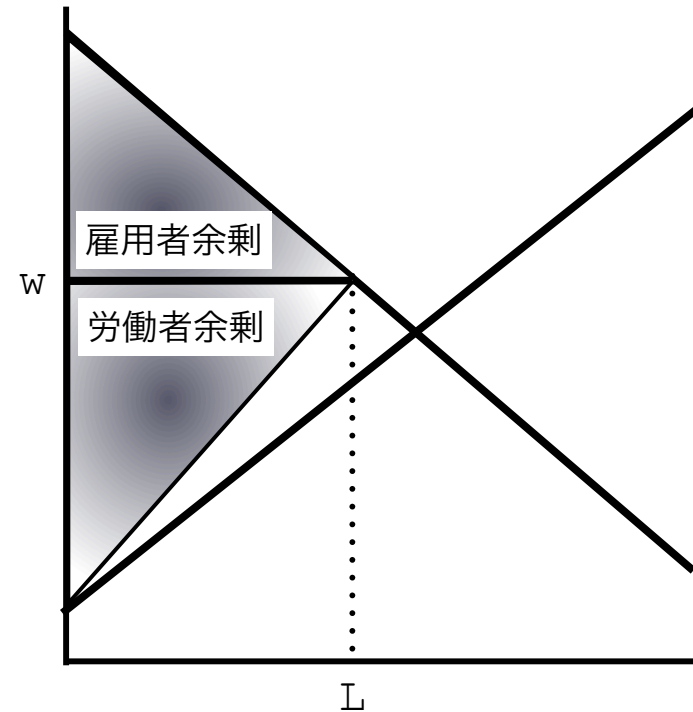
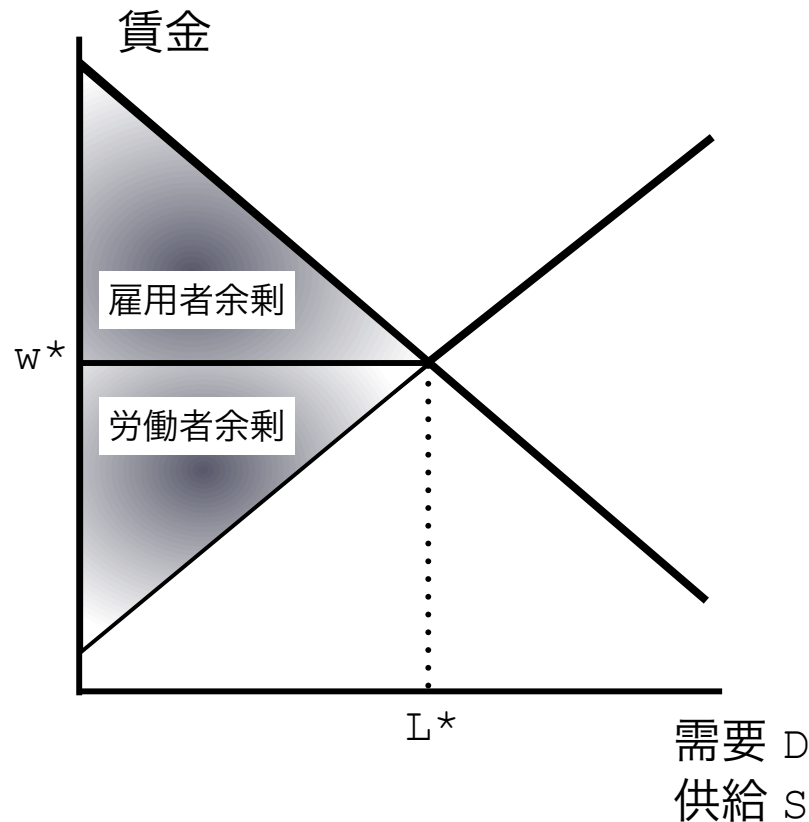
福祉サービスの価格規制

- 政府が、均衡価格以下の水準にサービス料金を定めると ($p^* \rightarrow p$) . . .
 - サービス供給者も利用者も減少する ($q^* \rightarrow q$)
 - 生産者余剰が減少する
 - 社会の総余剰が減少する (減少分は【死重損失】 Dead Weight Loss)



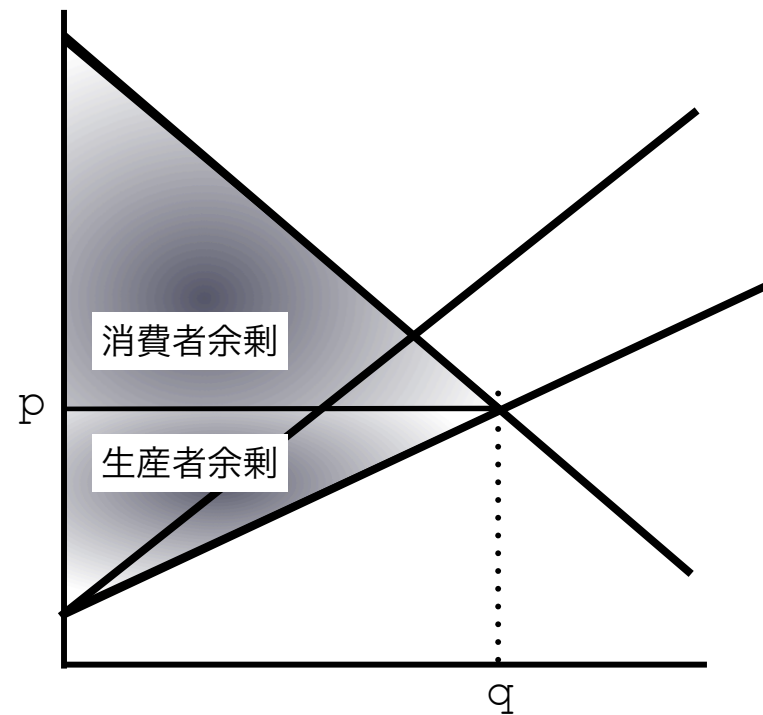
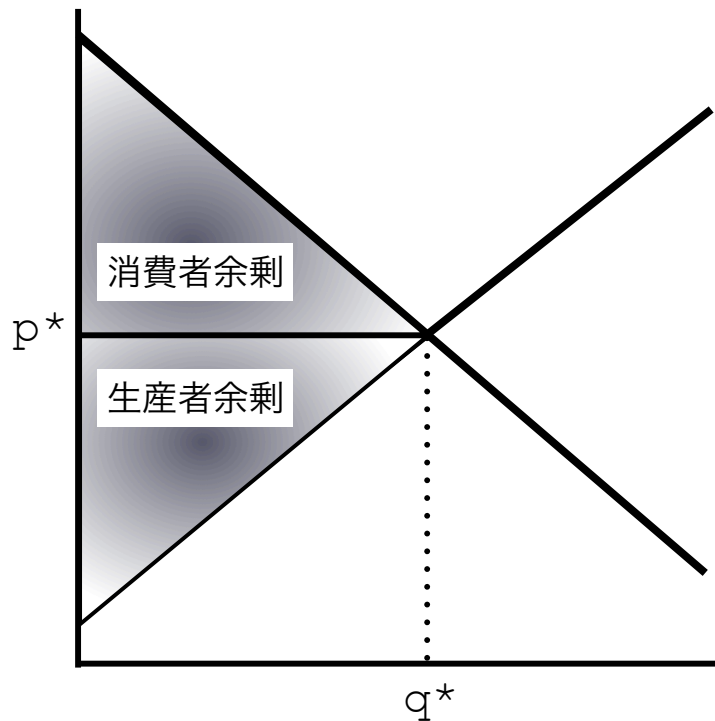
最低賃金制

- 政府が、均衡賃金以上の水準に最低賃金を定めると ($w^* \rightarrow w$) . . .
 - 雇用が減少する ($L^* \rightarrow L$)
 - 雇用者余剰が減少する
 - 社会の総余剰が減少する (減少分は【死重損失】 Dead Weight Loss)
- 最低賃金をさらに引き上げると、どんなことになるだろうか？



タクシー業界の規制緩和

- タクシー業界への参入規制が緩和された（2002年）。これにより・・・
 - 供給曲線が右にシフトして、
 - タクシー料金は低下（ $p^* \rightarrow p$ ）、タクシー利用は増えた（ $q^* \rightarrow q$ ）
 - 消費者余剰が増加した
 - 社会の総余剰が増加した
- 損をした者は誰だろうか？



輸入自由化

- 政府が、ある商品の輸入を自由化（関税を撤廃）したとしよう。
- 何が起きるかを考えてみよう。